

問題21

図1は43歳、男性、外傷性脳内出血で臨床的脳死の判定に記録した脳波である。この脳波検査における記録感度は $2\mu\text{V}/\text{mm}$ 、記録時間は30分間で、その他の条件はすべて法的脳死判定マニュアルに順じて記録してある。記録波形はほぼ平坦脳波であり、1カ所のみburst様の波が出現した。記録中、モニターチェックに一度だけ看護師がベッドサイドに近づいた。各設問に対して適当と思われるものを1つ選びなさい。

1) 図1のburst様の波形は何か。

- a) アーチファクト
- b) 脳の機能低下を示すburst-suppression
- c) 棘徐波複合
- d) 麻酔薬の大量投与によるもの
- e) 体動によるもの

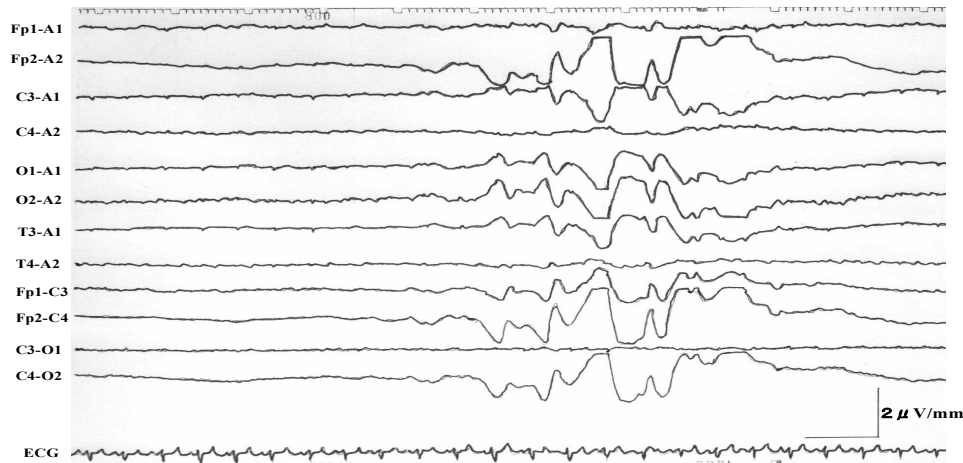


図 1

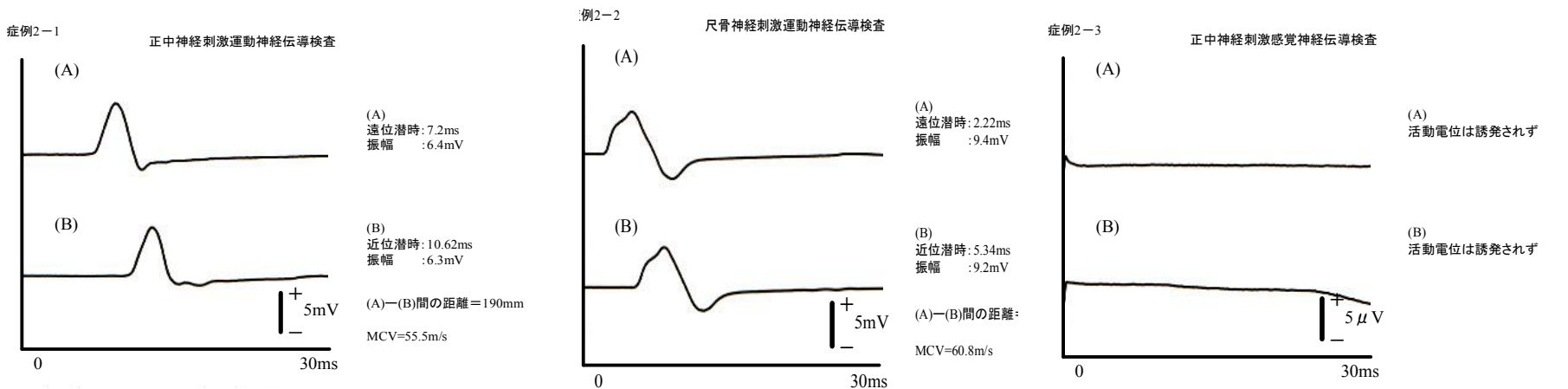
2) 1) の理由として考えられるものはなにか。

- a) 臨床的に脳死という診断であるが、1カ所のみまだ脳活動が出現した、burst-suppressionを示している。
- b) 麻酔薬として使用される薬物を大量投与した場合、速波期、複合期、burst-suppressionの傾向、抑制期が続く平坦に近くなるという段階を示す。その過程の一部である。
- c) 心電図波形をみると、burstの出ている箇所のみ基線が揺れており、アーチファクトが入っている。
- d) 記録中に徐脳硬直が起こり、その時の波形である。

問題22

図2は正中神経及び尺骨神経の神経伝導検査の結果である。

50歳、女性、体格は標準で、手先をよく動かす仕事をしており、利き手は右手である。8ヶ月ほど前より右手母指から中指にかけて痺れがあったが、放置しておいた。最近、夜痛みが出現し、増悪したため受診し、神経伝導検査を施行した。各設問に対して適当と思われるものを1つ選びなさい。



1) 神経伝導検査の結果から、最も疑われる病態はどれか。

- a) 肘部管症候群
- b) 手根管症候群
- c) 前骨間神経症候群
- d) guyon管症候群

2) 本症例において、最も適切な追加検査はどれか。

- a) 肘部関節における運動神経のインチング検査
- b) 神経反復刺激検査
- c) F波検査
- d) 手掌刺激による神経伝導検査

